

KRC WEB REPORT

徒然想

気がつけば今年も慌ただしい師走の真っ只中。振り返れば、ちょうど一年前のこの時期に、「今年はコロナ対策に振り回されたけれど、来年はきっと良い年になる」などと言われていたのを思い出します。時代は変わり続けていきます。当然、その価値観も変わり続けていきます。何を優先すべきなのか。自ずと、しかしゆっくりと、その答えは見えてくるものなのでしょう。乾いた冬の風が頬をかすめていけば、「この一年を糧にしつつ来年の光へと手を伸ばせば良い」と耳元で囁くかのように。皆様、今年も本当にお世話になりました。どうぞ良いお年をお迎えくださいませ。

TECHNICAL TOPICS 今月の技術情報

原爆ドーム補修工法等検討

原爆ドーム第5回保存工事が2021年4月に完了し、ドーム鉄骨は被爆時に近いとされる焦げ茶色になりました。ドーム鉄骨の塗替えや壁体の補修が行われたのは、平成元年の第2回保存工事以来となります。

当社は、昭和62年の保存調査以降、健全度調査の実施や3次元情報の取得など原爆ドームの保存に度々携わってまいりました。これまでの健全度調査結果から、劣化の程度が比較的大きく、このまま放置すると劣化の進行が著しくなる可能性のある箇所について、史跡原爆ドーム保存技術指導委員会のご指導のもと補修工法等を検討しました。

主な補修工法は以下のとおりです。



施工前の原爆ドーム



施工後の原爆ドーム

1. 鋼材の塗装

錆転換型下塗り+ふっ素樹脂塗料(弱溶剤形)により全面塗装を行いました。ケレンはRB種3種ケレンBとしました。



施工前

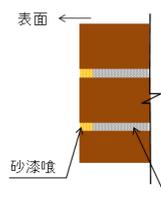


施工後

2. 煉瓦目地の補修

目地のシーリング材が浮き上がり、草の生育が見られるため、浮き上がった目地材を撤去し、草を取り除き、砂漆喰を目地に塗り込みました。

壁体断面図



施工前



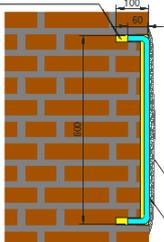
施工後

オリジナル目地材
(石灰セメントモルタル)

3. 補強金物の補修

過去の保存工事において、金物により補強された部分に錆汁や表面保護モルタルの浮きが見られたため、金物を同じ形状のステンレス鋼材に置き換え、モルタル等により断面修復しました。

既存エポキシ樹脂接着剤



モルタル断面修復



施工前

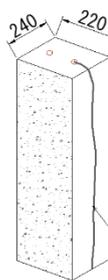


施工後

部材交換

4. 方立のひび割れ補修

ひび割れに対して無機系の超微粒子セメント等を流し入れて補修しました。表面は色あわせを行い、目立たない処理を施しました。



無機系材料
(色合わせ)



施工前



施工後

あわせて弊社ホームページをご覧ください。<https://www.krcnet.co.jp/topicsweb/topics165.htm>